

## 学位論文内容の要旨

学位論文題目名 中国の三年飢饉といわゆる「過大報告」の風潮との  
関係について —河南省の事例から

報告者氏名 ZHANG ZHIYU (張 志宇)

「過大報告」の風潮は政治社会にある程度普遍的に見られる社会腐敗であるが、本論文で分析、検討しようとしているのは大躍進時期に農民の利益をかえりみず、個人または小団体（県や公社、村などの指導グループ）の利益を優先して農作物収穫の成績を過大化した虚偽の成績を報告することを指す。

本論はまず大躍進飢饉の概況について述べ、「過大報告」の風潮と大躍進飢饉との関係について先行研究の課題と意義をレビューした後、過大報告風潮の“衛星”に関する第一次資料として当時の原始新聞記事などを挙げて、過大報告の実態、過大報告の方法などを述べる。そのうえで、過大報告風潮は大躍進の産物であるので、大躍進に関わる先行研究をサーベイして、過大報告風潮にかかわる先行研究と三年飢饉に関わる先行研究を概観する。そして、いわゆる「農業生産における過大報告の風潮と飢饉の深刻さとの相関関係」を検証し、その現実的な結果と意味するところにふれる。それら仮説を検証するために、大躍進のモデルとされた河南省の「大躍進」状況、特に過大報告風潮の状況を論述する。

本論は農業分野での過大報告現象について、その原因、方法、横行の実態、危害を当時の大躍進運動という背景の中で分析する。河南省全省の過大報告状況と全国平均レベルとの比較、河南省の人口損失と全国の人口損失との比較を通じて、河南省の大躍進及び過大報告状況が全国よりひどく、飢饉も全国平均レベルより深刻であると結論した。さらに、河南省内の五県（グループAの黄河以南の遂平県、西平県、光山県、グループBの黄河以北の濮陽県、湯陰県、）をサンプルとして、具体的に分析した。過大報告が大きい地域であるグループAは普通の地域であるグループBより、食糧徴収は高く、農民の食糧へのアプローチの切断がひどく、人口損失も大きいことを明確に示す。

本論文は過大報告風潮の程度と飢饉の深刻との相関関係を検証するだけでなく、過大報告と飢饉発生の内因関係をも分析する。

過大報告風潮は本質的に歪んだまたは間違っただけの情報氾濫である。飢饉をもたらした食糧の生産——流通——消費のメカニズムにおける情報の歪みは国家政策の錯誤をもたらした。飢饉をもたらした。食糧生産の段階に、過大報告風潮で多くの実験田が作られていたが、実際は管理は全体としてよく行き届いていなかった。例えば、密植だけを強調し、過密に植えた結果、実験田の収穫は普通の畑より低くなった。名目の実験田が少なければ、豊作の根拠はなくなる。すべての“衛星”は実験田の収穫高であると報道された。河南省の過大報告風潮がひどい地域では、“実験田”、“衛星田”の数、総面積に占める割合は、過大報告風潮がそれほどひどくなかった地域より多く、ほとんどの幹部は自分の実験田を必ずし

ていた。一方、過大報告風潮がひどくない地域には実験田は普及しなかった。食糧の生産高を上級に報告する時に、情報の歪みの程度は地域によって違う。過大報告風潮がひどい地域で幹部が報告した食糧生産高は、かけ離れていた。誇張されたもの報告をもとにして国からくだされた徴収任務は、過大報告風潮がひどい地域ほど普通の地域より大きい。

一方、計画経済の主要内容である食糧統一買い上げ・統一販売政策は、大躍進期における食糧徴収の政策根拠である。この政策は登場から大躍進まで、農民の生産意欲を萎縮させた結果として、生産力を停滞させ、農民の餓死事が続発する結果をもたらした。しかし、この時期には、過大報告風潮はなかったため、広範囲にわたる農民飢餓、飢饉までは発生しなかった。本論文の第2章がこの政策を全面的に論述する。

食糧の流通段階において、食糧は統一買い上げ・統一販売政策に従って国家に徴収され、食糧の生産者は食糧を支配する権利を失った。食糧は農村から国に調達されて、売り戻し時にまた遠く農村に運送される。この過程に浪費は不可避であった。徴収する時に、過大報告風潮がひどい地域での幹部は個人の私利だけを考え、農民の生死を全然念頭に置かなかった。普通の地域での基層幹部は、ある程度、農民の食事問題を念頭に置き、余った食糧は比較的多い。食糧の売り戻しは飢饉の救済に極めて肝要である。この時に、基層幹部が事実即ち報告することは売り戻しの前提条件である。飢饉が発生した時に、過大報告がひどい地域での幹部は事実を報告したくない。なぜならば、事実を報告すれば、以前の報告が虚偽である嘘であると自己否定に等しい措置をうける。それゆえ、過大報告風潮がひどい地域では、正しい情報の流れは困難をきわめ、食糧の売り戻しは少く、かつ遅い。

食糧の消費段階において、公共食堂の導入にともなって、農民に対する食糧消費の支配を強め、食糧自由消費権利は剥奪された。過大報告風潮がひどい地域での幹部は、農民が公共食堂以外で炊事することを一切禁止し、例えば、公共食堂で、毎日の食物、数量、品質、方式など、すべては幹部に決められる。過大報告風潮がひどい地域での公共食堂では、急速に数量、品質も悪くなる。普通の地域での幹部は、基本的に農民の公共食堂以外の炊事を禁止していたが、厳しくないところもあった。また、公共食堂の品質も比較的良かった。それゆえ、飢饉の被害は過大報告風潮がひどい地域よりも軽くて済んだ。つまり、農民の食糧消費にたいする権利はある程度残っていたといえる。

食糧の生産——流通——消費のメカニズムにおける情報の流れについて、過大報告風潮がひどい地域では、情報の歪みが普通の地域よりひどく、正しい情報がすくない。したがって、この地域の政府、基層幹部の政策決定も誤りが多い。これらの情報の歪みに相応して、この地域での飢饉の被害も普通の地域より大きい。

さらに第4章で過大報告の原因を先行研究より十分かつ全面的に論述する。

最後に、河南省の各級幹部の資質の未熟と過大報告との関係、地域別の幹部資質の差異の出現原因、地域別の国民素質の差異などにふれて、現在の中国がどう過大報告の現象を抑え、根絶するかは今後の研究課題になると考えている。